
豹変

悪魔の卵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

豹変

【ZPDF】

Z0648A

【作者名】

悪魔の卵

【あらすじ】

どこにでもいる普通の男が天の使いと逢つて・・・

ハンハカハーン

朝、その音で起^おこされた。
パンパカパーン？？

「おぬでといひ「アモニウム」です。」

目の前にはスーツを着た男の姿があつた。

「えーとですね。あなたは――」
「泥棒――か――！――？――？」

二
元
?

男を見事なハイキックで吹き飛ばし、鍵を閉めた。

俺は19歳。

一人暮らしをしている。

「ちょっと、開けてください。」

ドンドンと扉をたたく音が聞こえる。

「あんた誰だよ？」

一天の使いです。

「三ツ、開サニマニ。

しかたなく扉を開けた。

「おお〜〜
本物だ〜。」

『天の使い』の羽を触つた。

「ちよつ、あまつ触らないで下せ。」

へいへい て 云の便いとやひが何の用で う

• • • • • • • • • • • • • • • • • •

「あなたに幸せを届けに来ましたって言つたんです。」

「はい」

「なん
で。」

あなたはもうすぐ死ぬからです。

絶句した。俺が…………死ぬ？

「どうで？ いつ？ どうして？ どうやって？ なんで？」
「ちょっと落ち着いて下さい。いつ死ぬかだけ教えましょう。」

「いつだ？」

「4日後です。」

「それ意外は？」

「教えません。」

「何で？」

天の使いはしばらく考え、

「教えたくないからです。さあ、願いを行つて下さい。」

と、言った。

「・・・・・俺はもうすぐ死ぬんだな。」

「はい。」

「じゃ、放つといてくれ。」

「解りました。」

天の使いはすつと消えていった。

町中一（宣告があつてから2日目）

4日後に俺は死ぬんだ。

一日目、二日目。

時が刻々と過ぎていく中、俺は金を遊びに使いまくった。
どうせ死ぬんだ。あと2日後には・・・。
待てよ、2日後に死ぬつてことはそれまで絶対死なないってことだ
よな。

男はギャンブルに出た。

あるコンビニエンスストア（宣伝があつてから3日目）

「 いや これで全部です。」

店員の声は震えていた。

男は、強盗をしていた。

「 本当にこれだけか・・・？」

「 ・・・ はい。」

レジを覗き込んだ。1000円札が数札残っている。

「 これは金じゃないのか？」

「 ・・・ あつ ・・・ つ」

ズブッ。男は店員を刺して、店を出て行つた。

ニュース

アナウンサーが冷静に報道している。

「 今日、午前1時52分頃、 区のコンビニエンスストアで強盗
がありました。」

その時刻に働いていた店員は一人で、その店員は背中からナイフで
刺されており、

午前5時08分。息を引き取つた模様です。犯人は未だ逃走中です
ので周辺の・・・・・」

白(モ)ー

「ふふっ」

面白いよつに事が運ぶ。

死ぬのは明日。それさえ解れば問題ない。

男は、次々と犯罪に手を染めた。

ある道路ー（宣告があつてから4日目）

宣告があつてから4日が経つた。

今日死ぬ。

だが、今日死ぬというのは良いがもつすべの時だ。
本当に今日死ぬのか？ そう考えた刹那、ライトが男を照らした。

「来た・・・！」 そう呟いた。

トラックが男にスピードを下げるに迫つてくる。
運転手は寝ていた。居眠り運転だ。

ドンッ！

トラックは男を引いた。

男は薄れていく意識の中で思つた。

「あの天の使いが言つていたことは本当だつたな・・・・。

「…………きり……お…………う……」

目を開けた。意識がある。

天国か？

「お前を前科七犯で逮捕するー。」

「……………………え？」

警察署ー

「ほんとなんだ！ 信じてくれ！ 僕は死んだんだ！」

「はつ、何を寝ぼけたことを。お前は電柱に寄つかかって寝ていたんだよ。」

「…………そんな！ 確かにトラックに引かれたんだ！」

「…………。」

バタン。

刑事は取調室から出て行き、仲間に言った。

「あいつは頭がいかれてる。少年院の病院に送ろう。」「いかれてて当然だ。人を殺す奴はみんないかれている。」

少年院の病室ー

病室と言つてもただの牢屋だ。そこへー

「お久しぶりです。」

天の使いがやつてきた。

「つてめえーー！」

殴り掛けたがあつさりとかわされた。

「嘘ついたのかーー！」

「いいえ。」

「なら、なぜ俺は生きてるーー？」

「死んでますよ。宣告した時のあなたはね。」

「つな。」

「あなたは多くの罪を犯した。殺す理由すらない相手に、平氣でナイフをふるつた！」

「…………あればーー！」

「私の性とでも。」

「そうだよつ。あんたが俺が死ぬ日を言つたからーー！」

「私は殺せとは一言も言つていませんが。」

「つつ。」

「人間はすぐに変わる。変われる。化け物でも。天使でも。」

「…………」

「あなたは化け物に変わつたんですよ…………」

「…………」

「あなたには地獄に行つて永遠の苦痛を味わつてもううとしまじょう。」

「う。」

天の使いはにやりと冷酷に笑い、消えた。

「嫌だ！ 待てよーー！ 俺はーー！」

> f o n t s i z e = " 5 " < - 悪くない ! ! - > / f o n t <

男は、処刑され地獄に行つた。

男は今も、苦痛で苦しんでいる。終わることがない・・・苦痛で。

天と地獄の狭間ー

「 いかがでしたでしょうか？」

天の使いと名乗っていたものが言つた。

「 ふふ、なかなかの見物だつたぞ。」

「 人間はあそこまで変われるとはな。」

暗やみからそんな答えが返ってきた。

「あの人間は宣告されるまで普通の子だつたそうだな。」

「はい。」

「何故あの男を選んだ？」

天の使いはしばし考え、

「面白そつだつたからですよ。。。

男は冷酷な笑みで言った。

(後書き)

読んでくれてども！
感想を僕に送つてくれたなら嬉しいです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0648a/>

豹変

2010年10月9日00時37分発行